

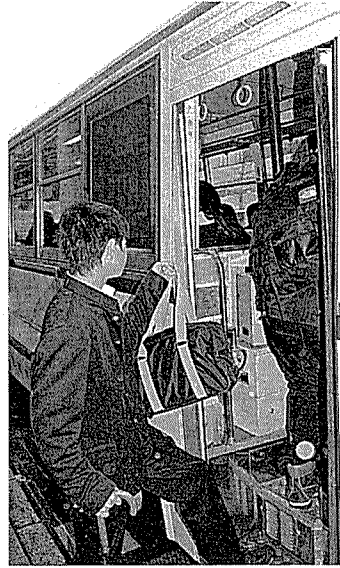
# 雨や雪の日だけ走るレイニーバス 羽水高校線 冬場 貴重な通学の足

雨や雪の日に限る、朝の通学時間帯に1便走る全国でも珍しい路線バスが福井市内にある。その羽水高校線の「レイニーバス」は、昨年春の運行開始以来、利用者は順調に推移しており、特に道路事情が悪い冬場になって、羽水高校生にとって、貴重な通学の足となっている。ただ、4月以降も運行されるかどうかはまだ決まっておらず、今後の行方が注目されている。

寒空の下、雨がしとしと降っていた1月21日の午前8時前、JR福井駅西口の「福井駅前」乗り場は、レイニーバスの出発を待つ羽水高の生徒たちでいっぱいだった。

「親の負担が軽くなり、とても感謝しています」と話すのは北村拓真さん(1年)。海岸沿いの福井市秦崎から通っていることもあり、以前は悪天候の日には保護者に学校まで車で送ってもらったこともあったが、今はレイニーバスを頼りにしている。

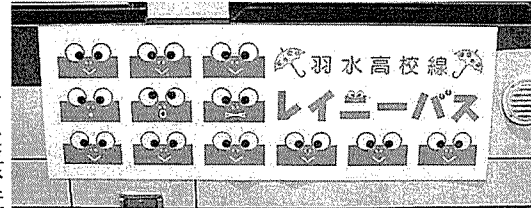
羽水高校線ルートは



雨や雪の日限り、1便が増便となる羽水高校線のレイニーバス。学校と京福バスが協定を結び、生徒自らが伝統の担い手となっている1月21日午前8時ごろ、福井市の「福井駅前」乗り場

「産業会館・福井厚生病院」が終点の路線は、かつては午前6〜7時(1年)、海岸沿いの福井台に3便が運行されていたが、2005年8月からは1便に減らされた。

## 1日最高36人も… どうなる新年度の運行



羽水高の生徒が考案したレイニーバスのイラスト。車体の側面に飾られ、仲間たちに積極的な利用を呼び掛けている。

「降雪期になってから乗車の学生がどんどん増え、1月15日には最高の36人が乗った。晴天の日には自転車で通学している福井市二の宮4丁目の浅井啓太さん(1年)は、冬場はバス通学に切り替えた。「悪天候の時には、道路も走りにくく、遅刻した。その点バスだと安全だし、始業時間に余裕を持って間に合う」とレイニーバスは歓迎だ。

ただ、レイニーバスが10年度も運行されるかどうかはまだ未定だ。運行開始に当たり、学校と京福バスは、運行継続の目安として「1便当たり20人」という目標を設定。現状段階では、平均利用者数は、わずかにこの数値に達していない。

今以上に生徒の利用促進を図ろうと、学校と京福バス、県はスクラムを組む。京福バスが携帯電話のサイトでレイニーバスの運行情報を提供する「レイニーバスを提案」など工夫を凝らす。車体ボディには、同高美術部の酒井雅佳さん(2年)部のカエルの絵が飾られ、仲間たちに積極利用を呼び掛けている。

北村さんや浅井さんのように、レイニーバスを貴重な移動手段とする生徒も増えており、2人は「絶対に残してほしい」と訴える。金牧廣校長も「学校からJR福井駅まで1便当たり乗客数は平均17人。このうち天気予報が外れて晴天にならずに、平均24人にア

を除去し、平均24人にアップする。降雪期になってから乗車の学生がどんどん増え、1月15日には最高の36人が乗った。晴天の日には自転車で通学している福井市二の宮4丁目の浅井啓太さん(1年)は、冬場はバス通学に切り替えた。「悪天候の時には、道路も走りにくく、遅刻した。その点バスだと安全だし、始業時間に余裕を持って間に合う」とレイニーバスは歓迎だ。